

越前市子ども読書活動推進計画（第3次）

～「すべての子どもがあらゆる機会と場所において

自主的に読書活動をおこなうことができる」環境づくり～



越 前 市

令和4年3月

越前市子ども読書活動推進計画 目次

はじめに

第1部 計画の概要

- 1 基本理念1
- 2 計画期間2
- 3 法的整理2

第2部 第2次計画期間《平成29年度～令和3年度》における取組み

- 1 家庭における取組み4
- 2 地域における取組み5
 - (1) 市立図書館における取組み5
 - (2) 越前市かこさとしふるさと絵本館「はな」における取組み7
 - (3) 児童センター・児童館や、地区公民館などにおける取組み9
 - (4) 民間団体、地域子育て支援センターや市民ボランティアなどにおける取組み10
- 3 学校などにおける取組み11
 - (1) 認定こども園・保育園・幼稚園における取組み11
 - (2) 小・中学校における取組み12
 - (3) 高等学校・特別支援学校における取組み13
- 4 人材育成13

第3部 子どもの読書活動を取り巻く情勢の変化

- 1 情報通信手段の普及・多様化15
- 2 学習指導要領の改訂15
- 3 読書バリアフリー法の制定16
- 4 新型コロナウイルス等感染症の影響16
- 5 持続可能な開発目標（SDGs）との関わり16
- 6 国の第4次基本計画と県の第3次計画について16

第4部 第3次計画期間《令和4年度～8年度》における方針及び取組み

- 第1章 計画の基本的方針18

1	計画の方向性	18
2	計画の目標と計画実現のための取組み	18
3	計画の実施期間と考え方	19
4	計画達成に向けて	19
第2章	計画実現のための取組み	21
1	家庭における読書活動の推進	21
2	地域における読書活動の推進	22
	(1) 市立図書館における読書活動の推進	22
	(2) 越前市かこさとしふるさと絵本館「 ^{はく} 」における読書活動の推進	24
	(3) 児童センター・児童館や地区公民館などにおける読書活動の推進	25
	(4) 民間団体、地域子育て支援センターや市民ボランティアなどにおける 読書活動の推進	26
3	学校などにおける読書活動の推進	27
	(1) 認定こども園・保育園・幼稚園における読書活動の推進	27
	(2) 小・中学校における読書活動の推進	28
	(3) 高等学校・特別支援学校における読書活動の推進	30
4	子どもの読書活動を支える人材の育成	32
5	計画期間内の達成目標	33
第5部	計画の推進体制	
1	市立図書館、学校、市民活動団体などの連携・協力	34
2	推進方法	35
3	結び	35
【資料1】		36
【資料2】		37
【資料3】～【資料7】		38
【資料8】～【資料10】		39

はじめに

子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。

越前市では、国の「子どもの読書活動の推進に関する法律」の制定及び、「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」の策定を受け、平成24年に「すべての子どもがあらゆる機会と場所において自主的に読書活動をおこなうことができる環境づくり」を基本目標に「越前市子ども読書活動推進計画」を策定し、5年ごとに見直しを図っています。

平成29年3月に策定した第2次計画では、家庭・地域・学校・図書館などそれぞれの場所で読書活動を推進するため、様々な活動に取り組んできました。その結果、令和元年度の調査においては、越前市内の小中学生とも、10分以上2時間未満の時間帯で読書する子どもが全国平均を上回るという成果を収めることができました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、社会の在り方が大きく変化しています。子どもの読書環境も例外ではなく、読み聞かせやブックトークをはじめとした読書活動をさらに広げていくためには、感染症対策を徹底するとともに、新しい生活様式に合った方法を模索し、読書の機会を提供していくことが重要です。

国は第4次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」において、読書習慣の形成に向けて発達段階ごとの効果的な取組みを推進することや、読書への関心を高める取組みを充実させることなど、現状の課題解決に向けた計画の方向性を定めました。

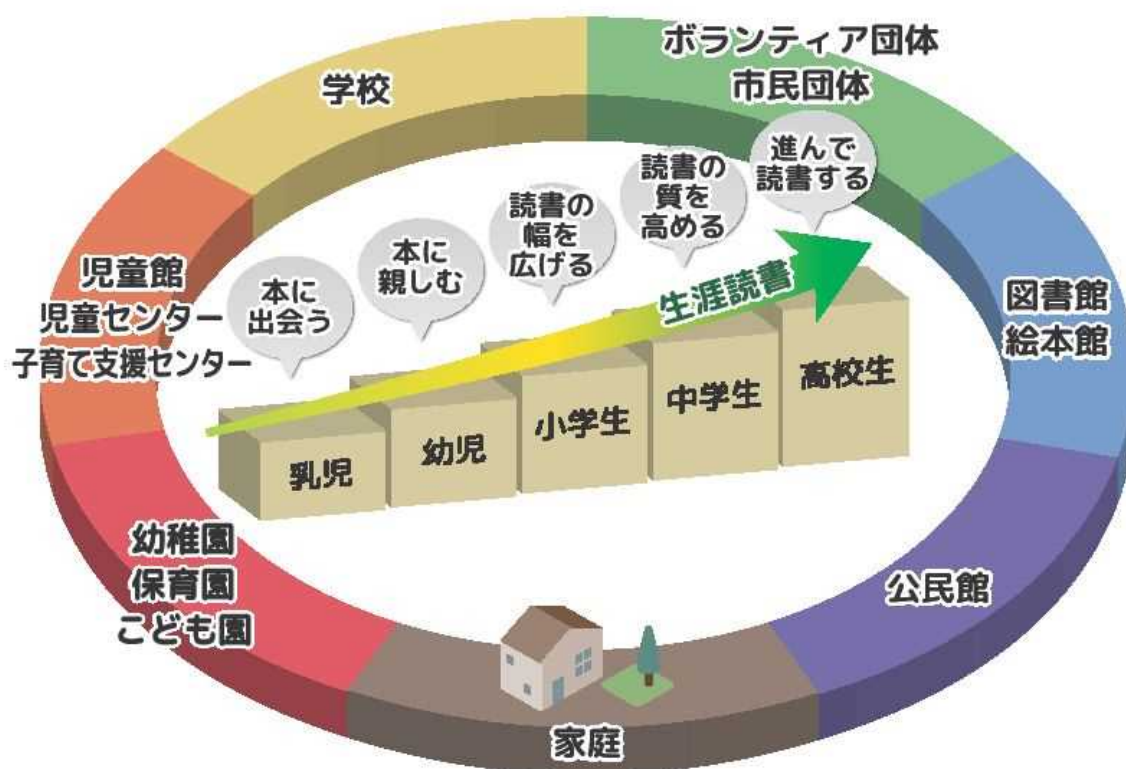
本市では、これまでの基本的な考え方を引き継ぎながら、国や県が示す課題解決に向けた方向性を踏まえ、取組みをさらに充実、発展させるため、「越前市子ども読書活動推進計画（第2次）」を改定することとします。

第1部 計画の概要

1 基本理念

子どもの読書活動は、「子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができる」環境の整備が推進されなければなりません。

そのため、家庭・地域・学校・図書館などが連携し、読書環境の整備に努め、世代や地域、障がいの有無を問わない読書活動の推進をし、住むことに誇りを持つ越前市民を育て、夢や希望を語り合える「読書のまち」の実現を目指します。



2 計画期間

本計画の期間は、令和4年度から令和8年度までの5年間とし、第2次計画の方向性等を発展的に継承していきます。

計画期間終了後は、本計画に基づく取組みの推進状況、子どもの読書をめぐる状況を踏まえ、必要に応じて見直ししていきます。

平成29年度	平成30年度	平成31 令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
越前市子ども読書活動推進計画（第2次）										
				越前市子ども読書活動推進計画（第3次）						
								計画改定	次期計画	

3 法的整理

(1) 国

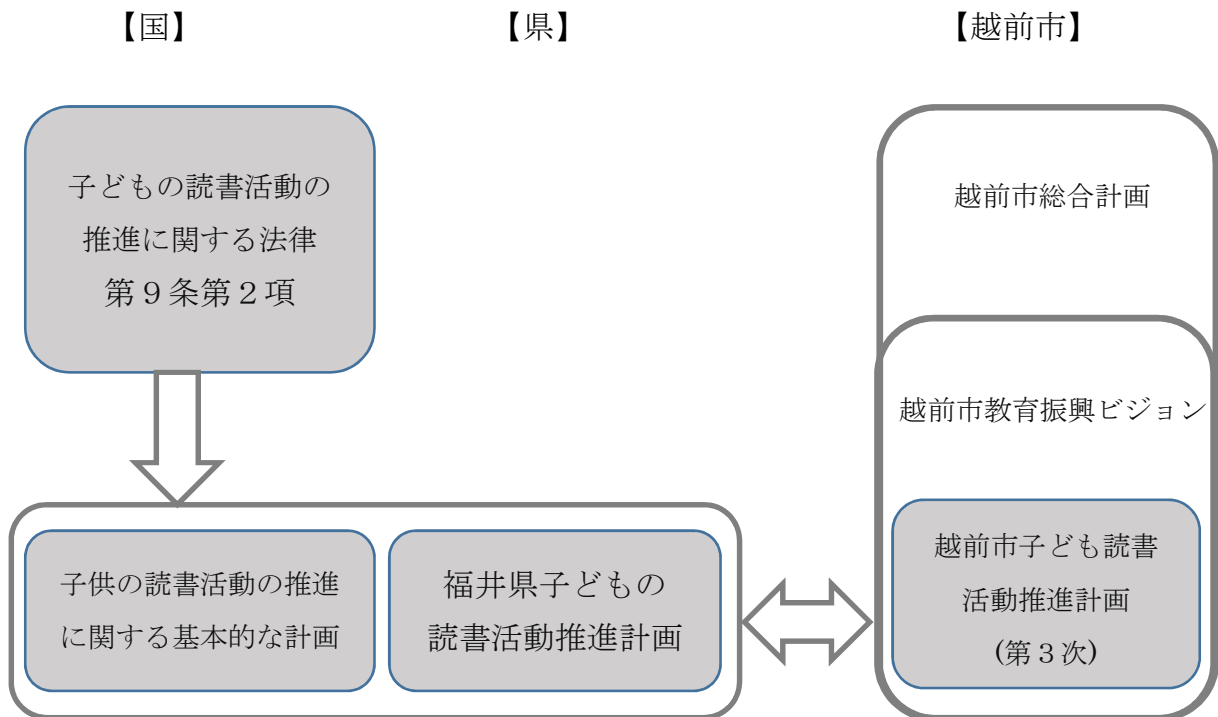
- 平成13年12月 「子どもの読書活動の推進に関する法律」公布・施行
- 平成14年 8月 「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」
(以下「基本計画」という。)策定
- 平成20年 3月 「第2次基本計画」策定
- 平成25年 5月 「第3次基本計画」策定
- 平成30年 4月 「第4次基本計画」策定

(2) 県

- 平成15年 4月 「福井県子どもの読書活動推進計画」策定
- 平成22年 3月 「元気ふくいっ子読書活動推進計画」策定
- 令和 2年 3月 「第3次福井県子どもの読書活動推進計画」策定

(3) 越前市

- 平成24年10月 「越前市子ども読書活動推進計画」策定
- 平成25年 3月 「読書のまち」宣言採択
- 平成29年 3月 「越前市子ども読書活動推進計画（第2次）」策定



第2部 第2次計画¹期間《平成29年度～令和3年度》における 取組み

1 家庭における取組み

- ① 5か月児セミナーの際に実施している「夢をはぐくむはじめのいっぽ（ブックスタート）事業」²をきっかけに、赤ちゃんへの読み聞かせは親子のふれあいとなることや、家庭に本があることの大切さ、家庭における読み聞かせや読書活動の大切さを啓発してきました。

5か月児セミナー参加者 (人)

H28	R1	R2
396	351	227

5か月児セミナー参加率 (%)

H28	R1	R2
61	63	48



5か月児セミナーでの読み聞かせの様子

- ② 「夢をはぐくむはじめのいっぽ（ブックスタート）事業」で配布する市立図書館発行のブックリスト「0・1・2歳からのえほん」をはじめ、同館発行の小学生向けブックリスト「おすすめのほん」や関係機関が発行しているブックリストを配布することで、本が選びやすい環境づくり、子どもの周りに常に本がある家庭づくりを推進してきました。
- ③ 「夢をはぐくむはじめのいっぽ（ブックスタート）事業」を契機として子どもが本に親しめるよう、関係各課が連携して、家族が揃って市立図書館や図書コーナーのある公民館などの公的機関に出かける時間を持つことの大切さを啓発してきました。

¹ 今回、「越前市子ども読書活動推進計画」を改定するにあたり、平成29年に策定した計画を「第2次計画」、今回の改定後の計画を「第3次計画」と表します。

² 5か月児セミナー時に、読み聞かせボランティアによる親子一組ずつの読み聞かせを行い、絵本とバッグをプレゼントするとともに、絵本の読み聞かせが親子のふれあいの機会になることや、家庭での親子での読み聞かせや読書活動の大切さを伝えています。

2 地域における取組み

(1) 市立図書館における取組み

① 毎週土曜日に、幼児、児童、保護者向けの各種定例行事を実施しました。

さらに、市立図書館周辺施設と連携し、幼児、児童、保護者向けの行事を計画的に実施しました。

市立図書館 各種定例行事実施回数・参加者数(回・人)

	H28	R1	R2
実施回数	84	76	45
参加者数	1,303	1,108	494



市立図書館での読み聞かせの様子

② 認定こども園・保育園・幼稚園(以下これらを「認定こども園等」という。)、及び小・中学校との連携を強化してきました。具体的には、読み聞かせやブックトークを実施するための市立図書館職員の積極的な派遣や、団体利用や団体貸出を促進してきました。なお、平成30年度より、小学校低学年はブックトークではなく、読み聞かせを実施しているため、ブックトークの実施回数は減少しました。

市立図書館 団体利用回数・貸出冊数(回・冊)

	H28	R1	R2
利用回数	41	18	22
貸出冊数	309	375	309

市立図書館 読み聞かせ・ブックトーク実施回数(回)

	H28	R1	R2
館内読み聞かせ	13	9	28
派遣読み聞かせ	49	58	21
ブックトーク	33	23	7

③ 市立図書館から離れた地域の子どもでも学校図書館を通じて市立図書館の図書が気軽に利用できる「ちょこっと予約」の周知を図り、小・中学校に対して利用を促してきました。(平成28年度以降、利用なし)

④ 児童コーナーでは、赤ちゃんから小学生を対象にした様々なテーマの特集コーナーを設置し、子どもが読みたくなる、大人が子どもに読ませたくなるような子ども向け図書を紹介してきました。また、保護者が子どもの様子を近くで見ながら本を選べるよう、児童コーナーの一部に、大人向けの本を集めたコーナーも設置しました。



児童コーナーの特集

- ⑤ ティーンズコーナーでは、中学生や高校生向けの図書を設置し、特に中学生や高校生が読みたくなるようなテーマを決めて特集を実施し、利用の拡大を図ってきました。

児童、ティーンズ向け展示回数（回）

H28	R1	R2
34	44	48

さらに、「越前市図書館友の会」³の中のYA倶楽部⁴は、中高生の会員が、毎月中高生向けの図書を中央図書館のティーンズコーナーで紹介し、機関紙「YA倶楽部通信」を発行しました。（「YA倶楽部」活動は令和2年で休止）

- ⑥ かこさとし氏やいわさきちひろ氏といった越前市出身の作家やゆかりの人物、伝統産業や地場産業などに関する図書を積極的に収集し、これらの図書を活用して、子どもを対象にしたふるさとゆかりの特集コーナーを毎年設置し、地域読書に取り組んできました。また、読み聞かせ等の際にはこれらの図書を活用し、子どもたちが郷土の歴史や文化に触れる機会を増やしてきました。

- ⑦ 外国人児童生徒及び外国語を学ぶ子どものために、英語やポルトガル語を中心とした外国語で書かれた子ども向け図書を充実しました。また、越前市国際交流協会などとも連携し、外国語をテーマにした子ども向け行事も実施してきました。



外国語での子ども向け行事の様子

- ⑧ 障がいのあるすべての子どもたちが自主的に楽しく読書が楽しめるよう、障がいの状態や程度に応じた図書を整備してきました。
- ⑨ 子どもの年齢に応じた推薦図書リストを作成し、認定こども園等、小・中学校、公民館などへの継続的な配布及びホームページへの公開を行いました。

また、関連機関が発行しているブックリストなど、子どもへの推奨図書の参考になる資料も積極的に収集してきました。さらに、夏休み前には、小学生向けにテーマを決めて学年別のおすすめ図書を紹介した「みんなでとしょかんへ」を発行し、小学校に配布してきました。

- ⑩ 仁愛大学附属図書館と互いの蔵書の返却図書受取サービスを実施しました。

- ⑪ 計画期間内の蔵書冊数は、562,000冊を目標とし、そのうち児童書の蔵書冊数は、118,000冊としましたが、令和2年度末の蔵書冊数は、558,832冊、そのうち児童書の蔵書冊数は116,231冊となりました。



³ 図書館の情報発信や、図書館をみんなで上手に利用することを目的に集まった図書館利用者の団体。

⁴ 「図書館友の会」の中の中高校生グループ。

市立図書館 蔵書冊数

(冊)

資料区分	H28	H29	H30	R1	R2	R3
一般	341,852	344,959	351,514	358,192	364,885	372,000
児童	108,494	110,207	112,213	114,358	116,231	118,000
地域資料	43,081	45,595	47,481	48,789	50,440	52,500
雑誌	17,371	18,186	18,689	19,291	19,259	19,300
CD、DVD	8,258	7,793	7,903	7,995	8,017	8,100
合計	519,776	526,740	537,800	548,625	558,832	569,900

(令和3年度は推計数値)

- ⑫ 市立図書館の利用カードは、小・中学生の殆どが登録するよう啓発するとともに、計画期間内の全登録者数は、人口推計値⁵に従い、40,000人⁶を目標としました。市立図書館利用カード登録について、子どもから大人まで幅広く登録してもらうよう啓発した結果、令和2年度末で登録者数は47,523人で、第2次計画期間内の目標値である40,000人を達成しました。

市立図書館 利用カード登録者数

(人)

H28	H29	H30	R1	R2	R3
41,052	42,731	44,603	46,232	47,523	49,000

(令和3年度は推計数値)

(2) 越前市かこさとしふるさと絵本館「^{らく}研」における取組み

- ① 「もとのえをみるへや」では、学習テーマを決めて、かこさとし氏の作品の原画等の展示を定期的に実施してきました。



かこさとし氏の作品の原画展示

かこさとし氏作品展示回数 (回)

H28	R1	R2
4	4	4

- ② 「えほんのへや」では、特集本コーナーを設け年数回テーマを決めて、かこさとし氏やいわさきちひろ氏の作品を紹介してきました。

⁵ 越前市総合計画《基本計画見直し》の人口推計。2025年で78,842人となっています。

⁶ 図書館の設置及び運営上の望ましい基準(平成24年12月 文部科学省生涯学習政策局社会教育課)の目標基準例によると、人口8~10万人の規模で、登録者数は人口の約半数となっています。

③ かこさとし氏の作品及び関連資料の収集を図ってきました。

作品介绍回数（えほんのへや）

（回）

かこ氏作品及び関連資料所蔵数（点）

	H28	R1	R2
かこさとし氏	12	12	12
いわさきちひろ氏	1	1	1

H28	R1	R2
509	577	596

※図書の副本は含まない

④ 絵本の読み聞かせや紙芝居の口演を実施し、子どもがより絵本に親しむことができる機会の創出に努めてきました。

絵本の読み聞かせ・紙芝居の口演実施回数（回）

H28	R1	R2
137	67	42



紙芝居の口演

⑤ 乳幼児・児童・保護者を対象とする行事を定期的実施するとともに、「こども行事カレンダー」（年1回発行）、「市ホームページ」及び「絵本館インスタグラム」にてイベント情報を発信してきました。

乳幼児・児童・保護者対象行事実施回数（回）

H28	R1	R2
137	75	45

⑥ 親子でゆっくりと絵本に親しむことができる環境づくりを推進し、「夢をはぐくむはじめのいっぽ（ブックスタート）事業」実施の際には、絵本館の案内を行うなど、絵本館への来館を促してきました。

⑦ 市内の認定子ども園等及び小学校などに、絵本館の団体利用を呼び掛けるとともに、絵本館にある絵本や紙芝居、昔あそびの道具などを「未来への行進号」⁷に積み、「出かける絵本館」事業の利用を推進してきました。

団体利用回数（回）

H28	R1	R2
33	32	17

出かける絵本館実施回数（回）

H28	R1	R2
15	3	4



未来への行進号

⑧ 社会教育団体や公民館などと連携し、かこさとし氏の作品に登場する昔あそび

⁷ 越前市中央図書館に寄贈されたかこさとし氏の「未来への行進」やコウノトリの絵などをボディにラッピングした車輛です。

や自然観察の環境を整備してきました。

- ⑨ ミニ紙芝居祭りや紙芝居コンテストを実施し、かこさとし氏の活動の原点である紙芝居の普及に努めてきました。

紙芝居コンテスト応募数 (点)

H28	R1	R2
48	16	33



コンテスト入賞作品

(3) 児童センター・児童館や地区公民館などにおける取組み

- ① 児童センター・児童館（以下「児童館」という。）や地区公民館（以下「公民館」という。）に図書コーナーを設け、積極的な図書の貸出の実施や、市立図書館の団体貸出の利用など、子どもの求める図書が手に取れる環境を整えてきました。

児童館・公民館団体貸出実施館数 (館)

資料区分	H28	R1	R2
児童館	15	15	15
公民館	16	17	17



公民館の図書コーナー

- ② 児童館や公民館では、児童厚生員や地域のボランティアが読み聞かせをしたり、越前市に伝わる昔話などの身近なお話を紹介したりすることで、親子で読書に親しむ機会をつくってきました。

児童館・公民館読み聞かせ等実施館数 (館)

	H28	R1	R2
児童館	15	15	15
公民館	10	12	10
子ども対象	12	11	8



学童での読み聞かせ

- ③ 児童館や公民館は、出かける家庭教育サロン⁸を活用し、読み聞かせを行ってきました。また、オレンジサポーターズ⁹と連携し、未就学児の親子を対象にした親子教室で絵本の紹介などを行ってきました。

⁸ 家庭教育支援のため、講演会や研修会などへ市が委嘱した講師を派遣する事業。

⁹ 地域の保護者で構成した、相談対応・子育て支援活動をしている家庭教育推進員。身近な地域の中で、子育てや家庭教育に関する相談にのったり、親子で参加できる活動や子育てに関する学習機会を提供したりするなど、地域に密着した家庭教育支援を行っています。

- ④ 公民館では公民館の広報紙を活用し、親子や家族みんなで仲良く読書に親しむ家読書の啓発を行いました。

出かける家庭教育サロン活用による読み聞かせ実施回数(回) 家読書啓発に伴う広報紙活用館数(館)

H28	R1	R2
3	3	1

H28	R1	R2
12	10	9

- ⑤ 公民館主事や児童厚生員の、子どもの読書活動に関する技術や、知識を向上させるため、研修会などの情報を積極的に提供し参加を促してきました。
- ⑥ 親子教室に参加している保護者などに対し、読み聞かせを実践するなどして、子どもの読書活動に関する意識の啓発を行ってきました。



(4) 民間団体、地域子育て支援センターや市民ボランティアなどにおける取り組み

- ① 市立図書館・小学校などを拠点として活動する民間団体が、それぞれ取り組んでいる読書推進活動を継続し、充実を図ってきました。
- ② 地域子育て支援センターでは、毎月開催する子育て講座にて、子育てマイスター¹⁰、市民ボランティア、図書館職員などによる読み聞かせ、保護者向けの絵本講座、読み聞かせと工作を組み合わせた絵本遊びなど、子育て支援ツールとして絵本を活用してきました。
- ③ 児童養護施設¹¹は、市立図書館との連携を強化し、読み聞かせや団体貸出を推進してきました。
- ④ 公民館・児童館・小学校・認定こども園等が、「出かける家庭教育サロン」事業を活用し、J P I C 読書アドバイザー¹²などを持つ家庭教育推進員の派遣を依頼し、読み聞かせを実施してきました。

家庭教育推進員による読み聞かせ実施回数 (回)

H28	R1	R2
3	3	1

¹⁰ 福井県独自の制度で、地域において子育てに関する悩みや不安の相談員や助言者として社会貢献活動を希望する方を募集登録しています。

¹¹ 環境上養護を要する児童を入所、擁護し、退所した者も、相談、自立のための援助をする施設。

¹² 家庭や地域などで読書の効用を説き、読書の楽しさを再発見するためのアドバイスを行う専門家を認定する資格。主催団体は(財)出版文化産業振興財団。同財団が実施する養成講座を修了すれば資格を得ることができます。

- ⑤ 個人で読み聞かせなどを行っている市民ボランティアに対し、市立図書館から学校等を通じて研修会や催事の情報を提供し、情報共有化を図ってきました。

3 学校などにおける取組み

(1) 認定こども園等における取組み

- ① 絵本コーナーでは、展示の工夫や、障がいの状態に応じた図書や外国語の図書を取り入れるなど、充実を図ってきました。

1園あたりの絵本の年間平均増数（冊）

R1	R2
33	35

* H28年度のデータなし

外国語絵本の導入園数（園）

R1	R2
3	4

* R1年度英語の絵本3園
R2年度英語の絵本2園・ポルトガル語の絵本2園

- ② 読み聞かせを職員が行うだけでなく、地域や保護者によるボランティアを受け入れて、絵本の読み聞かせや紙芝居などを積極的に行ってきました。
- ③ 誰もが気持ちよく読書を楽しめるよう、保護者や子どもに対し図書の扱い方を指導してきました。
- ④ 子どもたちがお気に入りの絵本を持ち帰ることで、家庭での読み聞かせを促しました。

家庭での読み聞かせ促進に関する頻度

(回)

	週1回	月1回	月2回	年4回	年12回	随時
R1年(22園)	14	1	0	0	1	6
R2年(15園)	10	2	1	1	0	1

* H28年のデータなし

- ⑤ 保護者向けの講演会や絵本だよりの発行などにより、読書の重要性を啓発してきました。
- ⑥ 職員が子どもの読書活動を更に推進できるよう、技術や知識の向上のため、市立図書館から情報を得ながら研修会などへ積極的に参加し、読み聞かせや団体貸出などについてもより一層、市立図書館との連携を図ってきました。
- ⑦ 越前市ゆかりの人物、作家の絵本や紙芝居等の読み聞かせを実施し、子どもたちが郷土の歴史や文化に触れる機会をつくってきました。

(2) 小・中学校における取組み

- ① 全校一斉読書や週末読書、家庭読書を推進し、読み聞かせやブックトークなどの読書活動の充実を図ってきました。
- ② 地域の人材を活用した朝読書での読み聞かせや紙芝居の口演などのボランティア活動を推進してきました。

ボランティアによる読み聞かせ等の実施校（校）

	H28	R1	R2
小学校	16	16	16
中学校	1	1	1



小学校での読み聞かせ

- ③ 読書活動について、学校行事や委員会活動、朝の会、帰りの会などを通して、児童生徒間の交流（異学年も含む。）を行い、読書の幅を広げてきました。
- ④ 学校図書館支援員が市立図書館と連携して、団体貸出やブックトーク、読み聞かせなどを実施し、図書を活用した授業を推進してきました。

学校図書館支援員数（人）

H28	R1	R2
5	5	5



小学校でのブックトーク

- ⑤ ブックリストを活用して、子どもの成長段階に応じた推奨図書の意識啓発に取り組みました。
- ⑥ 親子や家族みんなで仲良く読書に親しむ家読書ができるように、週末読書などを通して保護者など大人の読書に対する意識の高揚を図ってきました。
- ⑦ 教科書やブックリストに対応した図書の購入と廃棄を計画的に進め、学校図書館の蔵書の充実を図ってきました。
- ⑧ 児童生徒の委員会活動や、保護者・地域ボランティアを活用して、学校図書館の環境を整備してきました。
- ⑨ 読みたい本がすぐに手に取れるように、学校図書館と市立図書館が連携して、学級文庫を充実してきました。
- ⑩ 読書の好きな児童生徒を育成することを目的に、福井県が平成28年度から開始した「選定図書学校巡回事業」（図書を学校に巡回させ、一冊を読み通す体験をさせる事業）を活用して、学校・市立図書館・家庭が一体となった読書活動を推進しました。

- ⑪ 司書教諭と学校図書館業務にかかわる職員やボランティアとの協力・連携を深め、学校図書館の運営に当たりました。
- ⑫ 令和元年度より全中学校に図書システムを導入し、本の貸出返却を効率化することで読書に親しみやすい環境づくりを行いました。

(3) 高等学校・特別支援学校における取組み

- ① 高等学校や特別支援学校の司書教諭や学校司書は、市立図書館との連携を図り、団体貸出の利用を促進してきました。
- ② 多くの学校図書館において、月に1回程度展示の入替を行ってきました。
また、高等学校と市立図書館が連携し、高校生の興味を引くように図書の配架を工夫したり、展示を企画したりしてきました。
- ③ 特別支援学校では、市立図書館が特別支援学校の子どもたちの学びに協力できるような事業の働きかけを行ってきました。 ※市内小学校の特別支援学級の団体利用あり

4 人材育成

- ① 市立図書館の職員は、館内および県立図書館などで開催される児童サービスに関する研修会に参加し、資質向上に努めてきました。
- ② 生涯学習課では、公民館主事の研修の一つとして、J P I C¹³読み聞かせ研修会への参加を促してきました。

市立図書館職員の研修会参加数（人）

H28	R1	R2
27	8	9

公民館主事の JPIC 読み聞かせ研修会参加数(人)

H28	R1	R2
3	0	0

- ③ 小・中学校では、市立図書館と連携して、読み聞かせやブックトークに関する研修会に積極的に参加し、学校図書館の充実に努めました。
- ④ 認定こども園等では、職員の読み聞かせ技術の向上や絵本などに関する知識の充実のため、職員に研修会への参加を促してきました。

学校図書館支援員の研修会参加数（人）

H28	R1	R2
10	4	9

¹³ 一般財団法人出版文化産業振興財団のことで、出版業界・読書推進関連団体。読書推進活動の展開、出版・読書に関する学びの機会創造などの各種事業を展開しています。

- ⑤ 子どもの読書活動に直接かかわる職員は、研修会のほかにも、現場での体験を通して、園や学校などで必要な情報を理解するよう努めました。
- ⑥ 市立図書館をはじめとする関係各所では、子どもの読書習慣を育てる朝読書・読み聞かせにかかわることができる市民ボランティアの発掘及び支援を行い、活動への積極的な参加を促してきました。
- ⑦ 市立図書館では、読み聞かせや本の修理、選書の相談、装備などのボランティア希望者に対し、図書ボランティア基礎講習を実施し、図書ボランティア養成に努めました。

図書ボランティア基礎講習会実施数

	H28	R1	R2
実施回数（数）	1	3	0
参加人数（人）	3	20	0

(※R2はコロナウイルスの感染拡大の影響により未実施)

- ⑧ 市立図書館では、読み聞かせなどのボランティアを、市広報紙や図書館ホームページを活用して積極的に募集しました。また毎月発行している「図書館だより みんなでとしょかんへ」に、ボランティア団体が実施している勉強会等の案内記事を掲載し、活動について広く周知をしてきました。



ボランティア講習の様子

第3部 子どもの読書活動を取り巻く情勢の変化

1 情報通信手段の普及・多様化

スマートフォンやタブレット等の情報メディアの普及により、多様で膨大な情報が簡単に入手できるようになりました。デジタル情報の利便性の向上は、情報を収集し、分析して問題解決能力を高めることにつながる反面、家庭でインターネットやSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）等を利用して、ゲームをしたり映像を視聴したりする時間が増加し、子どもの読書離れに大きな影響を与えています。

また、電子書籍も市場規模が拡大し、子どもが電子書籍を読む割合も増加しています。SNS上の文章を読む機会も増え、紙媒体の本にとらわれない読書の方法が広がりを見せています。今後は電子書籍をはじめとする電子媒体の読書環境の整備についても検討していく必要があります。

これからの情報化社会では、電子媒体による多種多様な情報を取得し活用する能力の育成や、協調性や探求心など非認知能力につながる紙媒体の読書の両方が求められています。

2 学習指導要領の改訂

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28年12月）において、言語能力の向上が求められ、言語能力を向上させる重要な活動の一つとして、読書活動の充実が求められています。

これを踏まえ、平成29年3月に幼稚園教育要領、小学校・中学校学習指導要領が、平成29年4月、平成31年2月に特別支援学校、平成30年3月に高等学校学習指導要領が改訂されました。

新学習指導要領では、言語能力の育成を図るため、各学校で必要な言語環境¹⁴を整えるとともに、国語科を要としつつ各教科の特質に応じて言語活動を充実させることや、学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童生徒の主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすことで、児童生徒の自主的、自発的な学習活動や読書活動を充実することが規定されました。

新幼稚園教育要領では、引き続き、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむことが規定されています。

¹⁴ 教師の正しい言葉遣い、印刷物における用字や文字の適切な使用、話し言葉の適切な使用、好ましい人間関係などが小学校学習指導要領（平成29年告示）解説（総則編）に具体例として例示されています。

このように読書活動の推進は、教育基本法等の理念の実現を支える上で必要な要素と位置付けられています。

3 読書バリアフリー法の制定

令和元年6月に、「障害の有無にかかわらずすべての国民が等しく読書を通じて文字・活字文化の恵沢を享受することができる社会の実現」を目指して、「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（読書バリアフリー法）」が制定されました。

法整備の趣旨を踏まえ、障がいの種類や程度に応じた書籍提供の量的拡充及び質の向上が求められており、障がい者向けサービスの拡充に積極的に取り組む必要があります。

4 新型コロナウイルス等感染症の影響

新型コロナウイルス等感染症の防止策として3密（密集、密接、密閉）を避ける必要があり、多くの人を集めた啓発活動が難しくなる中、SNSなどの電子媒体を利用した情報発信など持続可能な読書活動の推進に取り組みます。

5 持続可能な開発目標（SDGs）との関わり

SDGs（Sustainable Development Goals）は、平成27年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、17のゴール（目標）と169のターゲット（達成基準）から構成されています。国は「持続可能な開発目標（SDGs）実施指針」で地方自治体の各種計画等にSDGsの要素を反映させることを推奨しています。SDGsの17のゴールのうち、特に「4 質の高い教育をみんなに」は本計画と関わりが深い分野として、達成に向けて取り組みます。



6 国の第4次計画と県の第3次計画について

平成30年3月に国の「第4次子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」が、令和2年3月に県の「第3次福井県子どもの読書活動推進計画」が策定されました。国の計画の中で、子どもの読書活動に関する課題として、①高校生の不読率¹⁵が改善されないこと、②小中学生の不読率が中長期的には改善傾向にあるものの、第3次計

¹⁵ 1か月一冊も本を読まない子どもの割合

画で目標とした進捗で改善されていないことの2つを挙げています。

国の計画では、高校生の不読率が改善されない原因として、①中学生までの読書習慣の形成が不十分であること、②高校生になり読書の関心度合いが低下すること、③スマートフォンの普及等による子どもの読書環境への影響の可能性があることと分析し、読書習慣の形成は、家庭、地域、学校等を通じた社会全体で取り組む必要性があると述べています。

県の計画でも、高校生の不読率は、全国平均を下回るが、近年増加傾向にあること、小中高生の3割以上が「ふだんから本を読まないこと」を挙げていることから、高校生の現状だけでなく、そこに至る中学生までの読書習慣の形成が不十分であることが課題として挙げられています。

第4部 第3次計画期間《令和4年度～8年度》における方針及び取組み

第1章 計画の基本方針

1 計画の方向性

現在の現状を改善するため、国は取組みの方向性として、次の3点を挙げ、家庭、地域、学校での取組みを推進することとしています。

【ポイント】

- ①読書習慣の形成に向けて、発達段階ごとの効果的な取組みを推進
- ②友人同士で本を薦め合うなど、読書への関心を高める取組みを充実
- ③スマートフォンの普及やSNS等コミュニケーションツールの多様化等、情報環境の変化が子どもの読書環境に与える影響に関する実態把握・分析

このような方向性を踏まえ、子どもの読書活動の推進が、家庭、地域、学校等を通じた社会全体で取り組まれるよう、市では、「子ども読書活動推進計画」の改定を行っていきます。

2 計画の目標と計画実現のための取組み

そこで本市では、「すべての子どもがあらゆる機会と場所において自主的に読書活動をおこなうことができる」環境づくりを目標に、家庭・地域・学校・図書館などがそれぞれの場所で読書活動を推進するため、次のことについて本計画で具体的な活動を示し、市全体で取り組みます。

(1) 家庭における読書活動の推進

家庭で子どもが読書する環境づくりを進めるため、家庭での読書推進について様々な機会を通じて啓発します。

(2) 地域における読書活動の推進

市立図書館が中心となり、地域の公的機関等と連携を図り、市民ボランティア等の協力を得ながら読書活動を推進します。

(3) 学校などにおける読書活動の推進

子どもが自由に読書を楽しみ、読書の幅を広げていくことができる環境を整備し、適切に支援します。

(4) 子どもの読書活動を支える人材の育成

家庭や地域、学校などで子どもの読書活動を推進していくために必要な人材の育成を図ります。

3 計画の実施期間と考え方

本計画の実施期間は、令和4年度から8年度までの5か年とし、その間、本計画に基づいて、具体的活動を進めていきます。その後も、継続して計画の見直しを行います。

越前市は、本計画を基に子どもの読書活動を推進します。そのために、それぞれの担当部門で活動を実施している事業について、関係機関、団体との連携、協力を系統的に継続して行うことを明確にします。

なお、計画期間中に具体的活動を実施するにあたり、新たな課題や具体的活動が必要となった場合は関係機関と協議し、その都度計画を見直すこととします。

4 計画達成に向けて

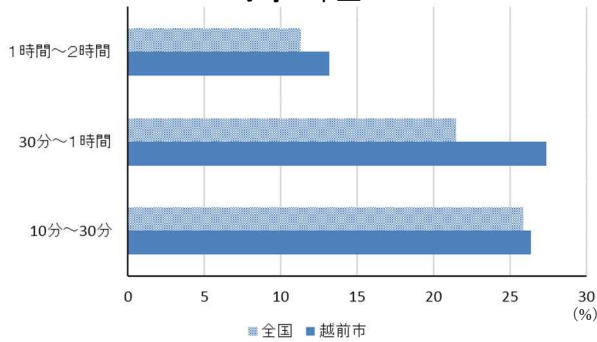
令和元年度全国学力・学習状況調査¹⁶において、学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらい読書をするかについての質問では、越前市内の小学生、中学生とも、10分以上2時間未満の時間帯で読書をする子どもが全国平均を上回っています。また、授業時間以外で学校や地域の図書館にどれくらい行くかについての質問では、越前市内の小学生が、週に1回以上行く頻度で福井県平均や全国平均を上回っています。読書が好きかとの質問では、当てはまる、若しくはどちらかといえば当てはまると答えた越前市の小学生、中学生は福井県平均や全国平均を上回っています。【資料2】

国の計画では高校生の不読率の改善のためには、中学生までの読書習慣の十分な形成が必要と分析されており、小・中学生の読書活動のより一層の充実が必要です。

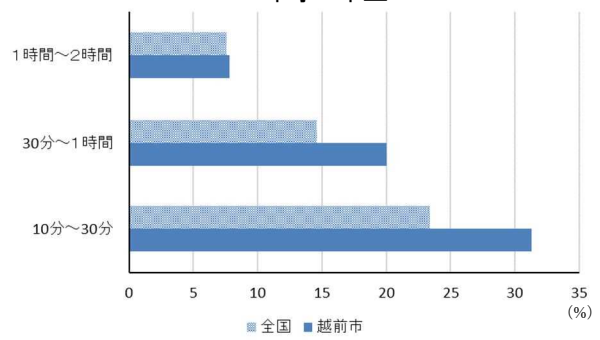
これら全国学力・学習状況調査の読書に関する項目の調査結果や市立図書館の統計数値などを、全国や福井県全体の数値と比較考察することにより、子どもの読書活動を推進し、計画達成を図ります。

¹⁶ 平成19年度から日本全国の小・中学校の最高学年（小学6年生、中学3年生）全員を対象として行われているテスト。一般に「全国学力テスト」とも呼ばれますが、学力・学習状況の調査的性格のあるテストとなっています。この調査における読書は、教科書、参考書、漫画、雑誌は除くとされています。

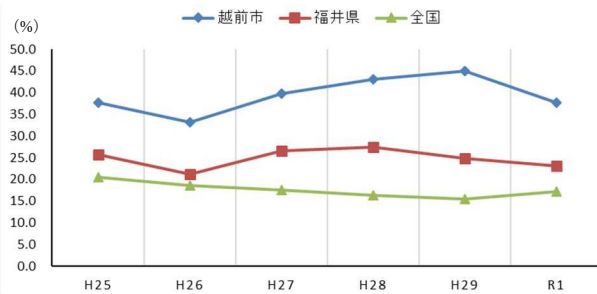
令和元年度 1日当たりの読書時間
小学6年生



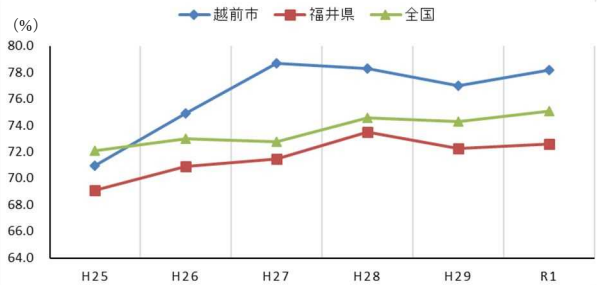
令和元年度 1日当たりの読書時間
中学3年生



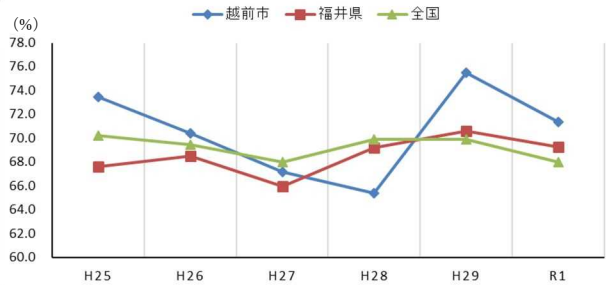
週に1回以上学校図書館や地域の図書館に
行く割合
小学6年生



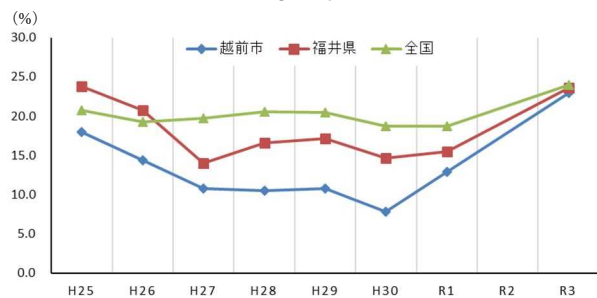
読書が好きな児童生徒の割合
小学6年生



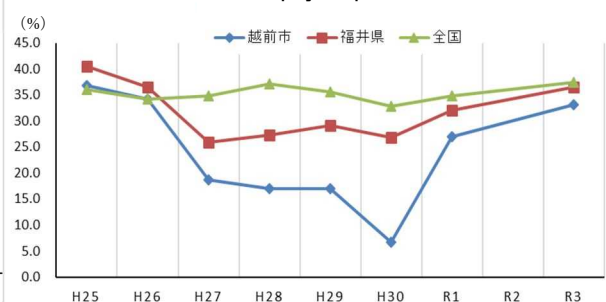
読書が好きな児童生徒の割合
中学3年生



平日に全く読書時間がない児童生徒の割合
小学6年生



平日に全く読書時間がない児童生徒の割合
中学3年生



(出典) 全国学力・学習状況調査(越前市)
※R2はコロナの影響により調査中止

第2章 計画実現のための取組み

1 家庭における読書活動の推進

【現 状】

年代を問わず、日常生活の中で読書を行う時間が年々減少しています。また、インターネットが浸透し、情報通信機器が発達したことにより、幼い子どもに本を読み聞かせる代わりにDVDやインターネットでの動画を見せる家庭が増加しています。また、子ども自身も、友人とのコミュニケーションや動画視聴等の目的のため、スマートフォンやインターネットの使用率が高くなっています。

家で本・新聞を全く読まない子どもの時間の使い方1位・2位

	1位	2位
小学生	テレビ・ビデオ・DVDを1時間以上見る(68.9%)	スマホやタブレット、ゲーム機を1時間以上使う(68.0%)
中学生	スマホやタブレット、ゲーム機を1時間以上使う(82.3%)	テレビ・ビデオ・DVDを30分から1時間以上見る(68.9%)
高校生	スマホやタブレット、ゲーム機を1時間以上使う(75.6%)	家で勉強を1時間以上する(64.1%)

「第73回学校読書調査(2020年版毎日新聞社)」

【対 策】

- ・ 保護者に対し、読書習慣や絵本がある生活が子どもにとってなぜ大切かということの理解を促し、読書が習慣として身につくような環境を整備するため、家庭における「本がある生活」の啓発が重要です。
- ・ 愛情豊かに赤ちゃんを育てる手段の一つとして、絵本を通じた親子でのふれあいの時間が重要であり、家庭での親子読み聞かせを習慣づけていく必要があります。
- ・ 親子や家族みんなで仲良く読書に親しむ家読書が、家族間のコミュニケーションを深めることにつながるということを啓発し、推進していく必要があります。

【計画期間内の具体的活動】

- ① 子どもが成長に合わせて本に親しめるよう、関係各所が連携して、保護者など大人の読書に対する意識を啓発し、家庭で一緒に本を楽しむ読書習慣の啓発をしていきます。【新規】
- ② 「夢をはぐくむはじめのいっぽ(ブックスタート)事業」¹⁷を推進します。
- ③ 5か月児セミナーに来られずブックスタートの絵本を受け取っていない家庭に

¹⁷ 第2部1①②③参照

対し、絵本を活用することで親子のふれあいが進むよう、地域子育て支援センターの職員が訪問しすべての対象者に絵本を届けます。

2 地域における読書活動の推進

(1) 市立図書館における読書活動の推進

【現 状】

図書館は、子どもにとっては、豊富な図書の中から自分の読みたいものを自由に選択し読書の楽しみを知ることのできる場所であり、大人にとっては、子どもに与えたい図書の選択や子どもの読書についての相談をすることができる場所です。

市立図書館では、催事・特集展示・読み聞かせやブックトークなどの実施、おすすめ図書の紹介、各機関との連携など様々な取り組みを行っています。市内にある仁愛大学附属図書館とは既に協定を結び、市立図書館の利用カード所持者に限り、仁愛大学附属図書館の資料を借りることができ、相互貸借も直接¹⁸行っています。



しかし、子どもの利用は年々減少傾向にあります。また、子ども向け図書（特に文学系の読み物）の貸出冊数も減少しています。

市立図書館 児童関係統計

	H28	H29	H30	R1	R2
児童書の貸出冊数（冊）	204,002	190,277	198,230	196,378	169,529
うち文学系読物の冊数（冊）	39,424	35,828	37,773	34,909	29,426
0～18歳の貸出冊数（冊）	82,425	78,249	80,299	81,208	72,314
全体における割合（％）	15.6	15.6	15.7	16.0	16.2
0～18歳の貸出人数（人）	14,149	13,361	14,288	14,077	11,716
全体における割合（％）	12.6	12.6	12.5	12.3	11.7

【対 策】

- ・ 企画や特集をより充実し、子ども向け図書の利用が促進されるような市立図書館の運営を行う必要があります。
- ・ 「団体貸出」や「団体利用」、「ちょこっと予約」の活用を促進するなど、地域や

¹⁸ 福井県立図書館が行っている、県内市町立・県内大学・近県の県市町村立図書館との相互貸借資料の搬送の定期便（LiBox）を利用せず、市立図書館が直接搬送しています。

学校などとの連携のより一層の強化が必要です。

- ・ 郷土の歴史や文化、伝統などに触れる地域読書^{まちどく}への取組みが求められています。
- ・ 外国人児童生徒及び外国語を学ぶ子どもや、障がいのある子どもに対する読書活動の支援が必要とされています。
- ・ だるまちゃん広場やかみなりちゃんのおうち、こうのとり広場など、図書館周辺施設との連携を強化し、施設利用者に図書館のPRを行っていく必要があります。

【計画期間内の具体的活動】

- ① 子ども自身が、積極的に読書推進活動のリーダー的役割を担えるよう、「ジュニア司書講座」等を企画して人材を育成します。【新規】
- ② 紙媒体にとらわれない読書の方法が広がりを見せていることや、近年の感染症の防止策として多くの人が集まる環境を避ける状況があることから、持続可能な読書活動を推進するため、電子書籍の導入も検討していきます。【新規】
- ③ 毎週土曜日には子ども向けの催事を定期的を実施します。【資料5】
- ④ 認定こども園等及び小・中学校との連携を強化します。具体的には、読み聞かせやブックトークを実施するための市立図書館職員の積極的な派遣や、団体利用や団体貸出を促進します。
- ⑤ 各小・中学校における特別支援学級の児童生徒に対する読み聞かせの実施、及び読み聞かせ技術の向上、また、団体利用や団体貸出を促進します。
- ⑥ 市立図書館から離れた地域の子どものでも学校図書館を通じて市立図書館の図書が気軽に利用できる「ちょこっと予約」の周知を図り、小・中学校に対して利用を促します。
- ⑦ 児童コーナーでは、赤ちゃんから小学生を対象にした様々なテーマの特集コーナーを設置し、子どもが読みたくなる、大人が子どもに読ませたくなるような子ども向け図書を紹介します。
- ⑧ ティーンズコーナーでは、中学生や高校生向けの図書を配置し、特に中学生や高校生が読みたくなるようなテーマを決めて特集を実施し、利用の拡大を図ります。
- ⑨ かこさとし氏やいわさきちひろ氏といった越前市出身の作家やゆかりの人物、伝統産業や地場産業などに関する図書を積極的に収集し、これらの図書を活用して、子どもを対象にしたふるさとゆかりの特集コーナーを毎年設置し、地域読書^{まちどく}に取り組みます。
- ⑩ 外国人児童生徒及び外国語を学ぶ子どものために、英語やポルトガル語を中心とした外国語で書かれた子ども向け図書を充実します。また、越前市国際交流協会などとも連携し、外国語をテーマにした子ども向け行事も実施します。

- ⑪ 障がいのあるすべての子どもたちが自主的に楽しく読書が楽しめるよう、障がいの状態や程度に応じた図書を整備します。
- ⑫ 子ども年齢に応じた推薦図書リストを作成し、認定こども園等、小・中学校、公民館などへの継続的な配布及びホームページへの公開を行います。
- ⑬ 仁愛大学附属図書館と、互いの蔵書の返却図書受取サービスを実施します。
- ⑭ 市立図書館の利用カードは、認定こども園等や学校に随時登録を促し、未就学児、小・中学生のほとんどが登録できるよう啓発します。



ジュニア司書講座の様子



ティーンズコーナー展示

(2) 越前市かこさとしふるさと絵本館「^{らく}碩」における読書活動の推進

【現 状】

絵本館では、子どもたちが絵本を通じて乳幼児期からの読書習慣¹⁹を身に付け、創造力や探究心を育むことを目的とした事業を行っています。

【対 策】

- ・ 絵本館が収集しているかこさとし氏やいわさきちひろ氏の作品を紹介して、子どもが越前市に愛着や誇りが持てるような活動を行うことが求められています。
- ・ 「本が好き」と言える子どもの育成を図るため、現在の事業を充実し、絵本につながるための本物に触れる機会がより増える工夫をする必要があります。
- ・ かこさとし氏の絵本等の作品につながるための昔あそび・外あそびの充実が必要とされています。

【計画期間内の具体的活動】

- ① 「もとのえをみるへや」では、学習テーマを決めて、かこさとし氏の作品の原画等の展示を定期的実施します。
- ② 「えほんのへや」では、特集本コーナーを設け年数回テーマを決めて、かこさ

¹⁹ 読書習慣とは、単に本を繰り返し読むということではなく、子どもが自ら進んで本を読もうとすることを言います。

とし氏やいわさきちひろ氏の作品を紹介します。

- ③ かこさとし氏の全作品の収集を図ります。
- ④ 絵本の読み聞かせや紙芝居の口演を実施し、子どもたちが、より絵本に親しむことができる機会の創出に努めます。
- ⑤ 乳幼児・児童生徒・保護者を対象とする行事を、定期的実施するとともに、「こども行事カレンダー」、「市ホームページ」及び「絵本館インスタグラム」にてイベント情報を発信します。
- ⑥ 親子でゆっくりと絵本に親しむことができる環境づくりを推進し、「夢をはぐくむはじめのいっぽ（ブックスタート）事業」実施の際に絵本館の案内を行い、絵本館への来館を促します。
- ⑦ 市内の認定こども園等及び小学校などに、絵本館の団体利用を呼び掛けるとともに、絵本館にある絵本や紙芝居、昔あそびの道具などを「未来への行進号」に積み、「出かける絵本館」事業の利用を推進します。
- ⑧ 社会教育団体や公民館などと連携し、かこさとし氏の作品に登場する昔あそびや自然観察の環境を整備します。
- ⑨ 紙芝居コンテストを引き続き実施し、かこさとし氏の活動の原点である紙芝居の普及に努めます。



出かける絵本館の実施の様子

（3）児童センター・児童館や地区公民館などにおける読書活動の推進

【現 状】

児童館において、親子教室や児童クラブで読み聞かせを実施しています。また、図書コーナーの充実にも努めています。

公民館では、読み聞かせ、地域の昔話のお話し会、古本市、図書室における子どもコーナーの設置、広報紙での読書啓発などを実施しています。さらに、家庭教育推進員と協力して、未就学児の親子を対象に読み聞かせを行っています。

【対 策】

- ・ 児童館や公民館では、子どもが本に興味を持ち読書の習慣が身につく活動を、地域ぐるみで取り組んでいくことが必要です。
- ・ 子どもを取り巻く大人への支援を地域で行う必要があります。

【計画期間内の具体的活動】

- ① 公民館主事は、地域における読み聞かせボランティアの人材を発掘し、活動を積極的に支援します。【新規】
- ② 親子や子ども対象の事業に、読み聞かせやブックトーク、紙芝居の口演を取り入れるよう努めます。【新規】
- ③ 児童館や公民館において図書コーナーを設け、積極的な図書の貸出の実施や、市立図書館の団体貸出の利用など、子どもが求める図書を手に取れる環境を整えます。
- ④ 児童厚生員や地域のボランティアなどによる読み聞かせをしたり、越前市に伝わる昔話など、身近なお話を紹介したりすることで、読書に親しむ機会をつくります。
- ⑤ 公民館や児童センターでは、出かける家庭教育サロンを活用し、読み聞かせを行います。また、オレンジサポーターズと連携し、未就学児の親子を対象にした親子教室で絵本の紹介などを行います。
- ⑥ 親子や家族みんなで仲良く読書に親しむ家読書の啓発を行うために、児童館や公民館などの広報紙を活用します。
- ⑦ 児童厚生員の、子どもの読書活動に関する技術や知識を向上するため、研修会などの情報を積極的に提供し参加を促します。

（４）民間団体、地域子育て支援センターや市民ボランティアなどにおける読書活動の推進

【現 状】

子どもにかかわる民間団体では、子どもの健全育成を目的とした活動を行っています。

地域子育て支援センターでは、利用する親子に読み聞かせを行うなど、保護者に対して読書を通した子と親の触れ合いの大切さについて啓発を進めています。さらに、図書コーナーの図書の貸出を行い、身近に本がある環境づくりに努めています。

市民ボランティアによる読み聞かせなども行われていますが、その技術や知識の習熟度は様々で、団体ボランティアに比べて個人のボランティアは図書館との連携が弱い点があるのが現状です。

【対 策】

- ・ 子どもにかかわる団体、市民活動団体、文化団体などのさらなる読書活動の推進が必要とされています。

- ・ 読書活動を行う市民ボランティアへの資質向上のための研修が必要です。
- ・ 団体間又は個人間の情報交換と、市立図書館との連携を進めていくことが必要です。

【計画期間内の具体的活動】

- ① 市立図書館・小学校などを拠点として活動する団体が、それぞれ取り組んでいる読書推進活動を継続し、さらなる充実を図ります。
- ② 越前市PTA連合会や越前市子ども会育成連絡協議会などに子どもの読書活動の推進を働きかけます。
- ③ 地域子育て支援センターでは、毎月開催する子育て講座において、子育てマイスター、市民ボランティア、図書館職員などによる読み聞かせ、保護者向けの絵本講座、読み聞かせと工作を組み合わせた絵本遊びなど、子育て支援ツールとして絵本を積極的に活用していきます。
- ④ 児童養護施設は、市立図書館との連携を強化し、読み聞かせや団体貸出を推進します。
- ⑤ 「出かける家庭教育サロン」事業を活用し、J P I C読書アドバイザーの資格などを持つ家庭教育推進員を、公民館・児童館・小学校・中学校・認定こども園などに派遣し、読み聞かせを実施します。
- ⑥ 個人で読み聞かせなどを行っている市民ボランティアに対し、市立図書館から学校などを通じて研修会や催事の情報を提供し、情報共有化を図ります。

3 学校などにおける読書活動の推進

(1) 認定こども園・保育園・幼稚園における読書活動の推進

【現 状】

発達段階に応じた絵本の読み聞かせや紙芝居の口演を日常的に実施することにより、好奇心を刺激し、想像力や集中力を養いながら、子どもの読書習慣づくりを推進しています。

また、本に親しむ環境づくりの一環として、子どもや保護者がいつでも絵本を手にとることができる絵本コーナーの設置及び保護者や地域ボランティアによる読み聞かせを実施しています。

【対 策】

- ・ 読書習慣を確立するために、絵本や物語の楽しさと出会う多様な機会を提供する必要があります。

- ・ 絵本を通した親子のふれあいや語り合いを推進する必要があります。
- ・ 障がいのある子どもや外国人の子どもも、同じように読書を楽しめる環境整備が必要です。
- ・ 職員が積極的に読書に関する研修に参加し、日常的に子どもが読書に親しめるような環境の充実を図っていく必要があります。

【計画期間内の具体的活動】

- ① 越前市ゆかりの人物、作家の絵本や紙芝居などの読み聞かせを実施し、子どもたちが郷土の歴史や文化に触れる機会をつくります。【新規】
- ② 絵本コーナーでは、言葉の楽しさや美しさに気付いたり、想像上の世界や未知の世界に出会えるような展示の工夫や、障がいの特性に応じた図書や外国語の図書を取り入れるなど、充実を図ります。
- ③ 職員が日常的に絵本の読み聞かせや紙芝居を実施します。また季節の行事や食育などでも関連する絵本や紙芝居を活用するなど、親しむ機会をつくります。
- ④ 読み聞かせを職員が行うだけでなく、地域や保護者によるボランティアを受け入れて、絵本の読み聞かせや紙芝居などを積極的に行い、そのような活動を保護者へ情報発信します。
- ⑤ 誰もが気持ちよく読書を楽しめるよう、保護者や子どもに対し図書の扱い方を指導します。
- ⑥ 子どもたちがお気に入りの絵本を持ち帰ることで、家庭での読み聞かせを促し、保護者の子どもの読書活動に対する理解や関心を高めます。
- ⑦ 保護者向け講演会や絵本だよりの発行などにより、読書の重要性を啓発します。
- ⑧ 職員が子どもの読書活動を更に推進できるよう、市立図書館から情報を得ながら研修会などへ積極的に参加し、読み聞かせの技術や知識の向上を図ります。また、読み聞かせや団体貸出などについてもより一層市立図書館との連携を図ります。

(2) 小・中学校における読書活動の推進

【現 状】

全小・中学校で全校一斉読書や週末読書、家庭読書が実施され、本に親しむ習慣づけを行っています。小学校では、児童の読書活動を推進するため、学校図書館支援員が全校を巡回しており、保護者や地域のボランティアにより、朝読書などで読み聞かせが、市立図書館との連携により、団体貸出や図書館司書によるブックトークが行われています。

また、全小・中学校で県の「選定図書学校巡回事業」を活用し、学級で全員が同じ

本を読めるよう選定図書を巡回させているほか、中学生を対象とした「ビブリオバトル」²⁰（発表者が制限時間の中で書評を行い、投票により、最も人気を集めた一冊を決める取組）を開催しています。

【対 策】

- ・ 児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすため、学校図書館を計画的に利用し、その機能の活用を図る必要があります。
- ・ 全ての子どもたちが、成長段階に応じた推奨図書に親しみ、読書の楽しさを味わい、自主的、自発的な学習活動や読書活動ができる環境づくりが必要です。
- ・ 本に関する情報発信や収集に際し、通信機器やSNSを有効活用できるように、児童生徒に対する情報教育の推進が望まれます。

【計画期間内の具体的活動】

- ① 児童生徒が、学校図書館を利用し、情報を収集活用し、まとめたり、報告したりする活動の充実を図ります。【新規】
- ② 越前市ゆかりの人物、作家の絵本や紙芝居等の読み聞かせを実施し、子どもたちが郷土の歴史や文化に触れる機会をつくります。【新規】
- ③ 本に関する情報発信や収集に際し、通信機器やSNSを有効活用できるように、児童生徒に対する情報教育を推進します。【新規】
- ④ 小・中学校が連携し、ノーメディアデーを設定し、スマートフォンやネット、ゲーム、動画視聴等から離れ、読書の時間を確保する取り組みを行います。
- ⑤ 全校一斉読書や週末読書、家庭読書を推進し、読み聞かせやブックトークなどの読書活動の充実を図ります。
- ⑥ 地域の人材を活用した朝読書^{あさどく}での読み聞かせや紙芝居の口演などのボランティア活動を推進します。
- ⑦ 読書活動について、学校行事や委員会活動、朝の会、帰りの会などを通して、児童生徒間の交流（異学年も含む。）を行い、読書の幅を広げます。
- ⑧ 学校図書館支援員が、市立図書館と連携して、団体貸出やブックトーク、読み聞かせなどを実施し、図書を活用した授業を推進します。
- ⑨ ブックリストを活用して、子どもの成長段階に応じた推奨図書についての意識啓発に取り組み、発達段階ごとの効果的な図書の充実を図ります。
- ⑩ 親子や家族みんなで仲良く読書に親しむ家読書^{うちどく}ができるように、保護者など大

²⁰ 各自が本を持ち寄って集まり、本の面白さについて5分程度でプレゼンテーションし合い、一番読みたくなった本を参加者の多数決で決定する書評会です。

人の読書に対する意識の高揚を図ります。

- ⑪ 教科書やブックリストに対応した図書の購入と廃棄を計画的に進めるとともに、市立図書館の職員が学校図書館へ出向き、配架の仕方や図書の除籍等について助言し、学校図書館の蔵書の充実を図ります。
- ⑫ 児童生徒の委員会活動の充実を図るとともに、保護者や地域のボランティアの活用を推進し、学校図書館の環境を整備します。
- ⑬ 読みたい本をすぐに手に取れるように、学校図書館と市立図書館が連携して、学級文庫を充実するため、蔵書検索のシステム利用、通信機器等の有効活用を進めます。
- ⑭ 司書教諭と、学校図書館業務にかかわる職員やボランティアとの協力・連携を深め、学校図書館の運営に当たります。
- ⑮ 読書の好きな児童生徒を育成することを目的に、県の「選定図書学校巡回進事業」を活用して、読書活動を進めます。



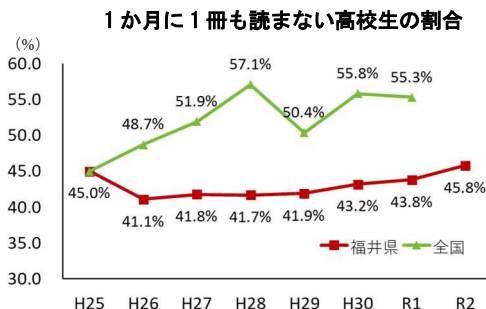
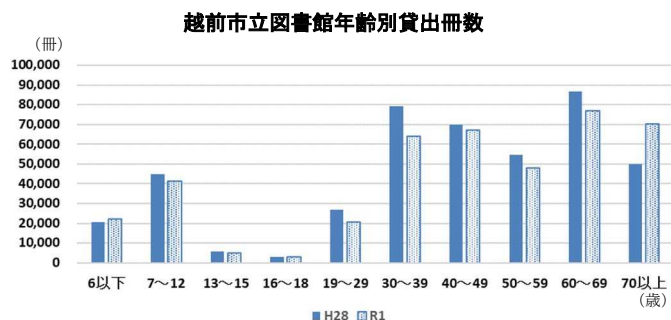
小学校でのタブレットを使った授業

(3) 高等学校・特別支援学校における読書活動の推進

【現 状】

市内にある高等学校3校では、「朝の読書」や「ビブリオバトル」など様々な読書推進活動が実施されていますが、市内の特別支援学校1校も含め、市立図書館との連携は活発ではありません。しかし、平成28年度から市立図書館の「出かける図書館²¹」サービスを受けており、今後の更なる連携が期待されます。

また、市立図書館を学習スペースとして利用する高校生は多く、自立的な学習の場を提供してはいるものの、年齢別の貸出冊数を見ると、16歳から18歳の貸出冊数及び貸出人数ともに少ない現状です。



福井県「高校生学習状況調査」
全 国「学校読書調査」

²¹ 市立図書館が、福祉施設などへ出向いて団体貸出を行う事業です。

高校生の本を読まない理由 (％)

ほかのことをしていて時間がなかったから	47.0
普段から本を読まないから	31.8
ほかにしたいことがあったから	25.1

「子供の読書活動の推進等に関する調査研究報告書 平成30年度」(文部科学省)

【対 策】

- ・ 高等学校図書館と市立図書館との連携を強化する必要があります。
- ・ 特別支援学校と市立図書館との事業協力を推進していく必要があります。
- ・ 高校生に読書の楽しさを伝える、市立図書館や学校図書館の運営が求められます。

【計画期間内の具体的活動】

- ① 市立図書館では、学生が来館する機会が多い時期に、学習の合間に気分転換に手にとれるような本や、各学校図書室で人気のある本を集めた展示コーナーを設置し、本に興味を持つ機会を増やします。【新規】
- ② 市立図書館では、SNSを使用し、学校に対して司書のおすすめの本や図書館の人気本についての情報発信を行います。【新規】
- ③ 高等学校や特別支援学校の司書教諭や学校司書は、市立図書館との連携を図り、団体貸出の利用促進を図ります。また、市立図書館は、学校側が求めるサービスを調査します。
- ④ 学校図書館や市立図書館では、入館した高校生が図書を手取るような展示・特集コーナーを設置し、図書の配架を工夫するとともに、レファレンスサービス²²を充実させます。また、市立図書館は高等学校や特別支援学校と連携した催事を企画します。
- ⑤ 市立図書館は、特別支援学校の子どもたちの学びに協力できるような各種事業の働きかけを行います。



ビブリオバトルで紹介された本の展示

²² 図書館利用者が学習・研究・調査を目的として必要な情報・資料などを求めた際に、図書館員が情報そのものあるいはそのために必要とされる資料を検索・提供・回答することによってこれを助ける業務のことです。

4 子どもの読書活動を支える人材の育成

【現 状】

市立図書館や絵本館²³では子どもの読書活動に関する市民ボランティア向けの講座を定期的で開催したり、市立図書館において市民ボランティア間の連絡会を実施したりするなど、市民ボランティアの資質向上に努めています。また、市民ボランティアと連携・協力して開催するイベント等もあります。

子どもの読書活動に関係する職員においても、県内外の様々な研修を受講し、資質向上に努めています。

また、子どもの保護者へも、一番身近な子どもの読書活動を支える人材として、子どもの読書の大切さを啓発し、将来的なボランティアの発掘につながるような働きかけが必要です。

【対 策】

- ・ 子どもの読書活動に直接かかわる、市立図書館・学校・認定こども園等が、読み聞かせの技術向上の研修会や子どもの本の理解を深めるための講座などを開催したり、参加したりするなどして、職員の資質向上を図る必要があります。
- ・ 市民ボランティアに関しては、個々人の技術や習熟度の違いや人員の固定化・高齢化などが見受けられるため、後継者などの発掘や更なる育成を図ることが必要です。
- ・ 市民ボランティアは様々なところで活動していますが、図書館との情報共有・連携をより確実に行う必要があります。
- ・ 市立図書館をはじめとする関係各所が、催事や研修などの開催情報の提供を相互に行い、子どもの本や読書に対する偏見をなくし、理解をしてもらうなど、連携して人材育成に取り組む必要があります。
- ・ 子どもの読書に関心を持つ保護者など、将来ボランティアになりうる人材を発掘するため、最初の入り口として子どもへの読み聞かせなどの講座を開催する必要があります。

【計画期間内の具体的活動】

- ① 市立図書館では、子どもの読書に関心を持つ人の裾野を広げるため、定例行事等に参加された保護者に向け、家庭における読書活動の大切さを啓発し、読み聞かせ等の研修、講座の情報を積極的に発信して、将来的にボランティアになりう

²³ 絵本館では、紙芝居に関する講座を平成 28 年 11 月から開催しています。

る人材の発掘に努めます。【新規】

- ② 市立図書館の職員は、県内外で開催される児童サービスに関する研修会に参加し、資質向上に努めます。
- ③ 公民館では、子どもの読書活動を支援することができる地域の人材を発掘し、活動への積極的な参加を促します。
- ④ 小・中学校では、市立図書館と連携して、読み聞かせやブックトークに関する研修会に積極的に参加し、学校図書館支援員の資質向上の充実に努めます。
- ⑤ 認定こども園等では、職員の読み聞かせ技術の向上や絵本などに関する知識の充実のため、職員に研修会への参加を促します。
- ⑥ 子どもの読書活動に直接かかわる職員は、研修会などの実地体験を通して得た園や学校などで必要な情報を、OJT²⁴などで共有や発信に努めます。
- ⑦ 市立図書館をはじめとする関係各所では、子どもの読書習慣を育てる朝読書・読み聞かせにかかわることができる市民ボランティアの発掘及び支援を行い、活動への積極的な参加を促します。
- ⑧ 市立図書館では、読み聞かせや本の修理、選書の相談、装備などのボランティア希望者に対し、図書ボランティア基礎講習を実施し、図書ボランティア養成に努めます。
- ⑨ 市立図書館では、読み聞かせなどのボランティアを、市広報や図書館ホームページで募集するほか、募集チラシを作成し、配布します。さらにボランティア団体が実施している勉強会などについても、「図書館だより みんなでとしょかんへ」に掲載し、広く周知を行います。

5 計画期間内の達成目標

【5年後の達成目標】

(%)

	現状	目標 R8
「読書が好き」な児童（小学6年）の割合	78.2	80.0
「読書が好き」な生徒（中学3年）の割合	71.4	75.0
平日の読書時間が全くない児童（小学6年）の割合	23.0	10.0
平日の読書時間が全くない生徒（中学3年）の割合	33.1	15.0
1か月に1冊も本を読まない高校生の割合	45.8	40.0*

現状の数値は公表されている最新（上2段はR1, 中2段はR3, 下段はR2）
※福井県のR6までの達成目標

²⁴ 「On The Job Training」の略称で、新人や未経験者に対して、実務を体験させながら仕事を覚えてもらう教育手法。

第5部 計画の推進体制

1 市立図書館、学校、市民活動団体などの連携・協力

【現 状】

市立図書館では、子どもの発達段階に応じた推薦図書リストなどを作成して、認定こども園等及び小学校へ配布しています。

また、小学生のジュニア司書講座の実施、中学生の職場体験学習や高校生のインターンシップなどの受け入れにより、子どもが司書の仕事や図書館で働くことを学ぶ場を提供しています。

市立図書館、絵本館、越前市生涯学習センター（以下「生涯学習センター」という。）が協力し、子ども向けの行事を連携して開催しています。

教員、学校図書館支援員、市立図書館職員が互いに協力し、学校における子どもの読書活動の推進を行っています。

【対 策】

- ・ 図書館、児童館、絵本館、公民館、認定こども園等、学校、生涯学習センター及び市民活動団体などにおいて様々な読書推進活動が行われていますが、効果的に実施していくためには連携や協力が不可欠であり、今後も継続して推進していく必要があります。
- ・ 小学校、認定こども園等で、保護者が集まる機会を利用して、子どもが本を読むことの大切さを啓発する必要があります。

【計画期間内の具体的活動】

- ① 市立図書館、児童館、絵本館、公民館、認定こども園等、学校、生涯学習センター及び市民活動団体は、開催する子ども向け事業の情報を相互に提供し、連携・協力ができる体制づくりに努めます。
- ② 市立図書館職員は、小・中学校図書館を訪問し、学校図書館充実の支援を行います。
- ③ 市立図書館は、学校における読書活動や調べ学習を支援するため、学校で必要とされる図書を整備し、団体貸出の充実を図ります。
- ④ 市立図書館は、市関連の子ども向け行事などの際に団体貸出を行い、子ども向けの「出かける図書館」事業を推進します。
- ⑤ 絵本館は、他団体などと連携して、子どもの読書を推進する「出かける絵本館」事業の充実に努めます。

- ⑥ 市立図書館、絵本館、生涯学習センターは、継続して協力し、子ども向けの行事を開催します。
- ⑦ 計画にかかわる団体又は組織は、「読書のまち宣言」を指標として事業を実施し連携の強化につながることを目指し、市立図書館が中心となって「読書のまち宣言」の普及に努めます。
- ⑧ 今の子どもたちが大人になったとき、自分の子どもたちにも本の楽しさを伝えることができ、将来的にはボランティアに携わったり、家庭で一緒に本に親しめたりするよう、生涯読書の啓発に努めます。

2 推進方法

越前市及び越前市教育委員会（主に図書館、教育振興課、生涯学習課、子ども福祉課、健康増進課を中心に）は、目標実現のために、市民ボランティアの協力を得ながら、市民活動団体、民間団体などとも連絡を密にし、計画期間内の推進状況を把握し、具体的活動について検討するなど、PDCAサイクル²⁵により計画を推進します。

3 結び

「すべての子どもがあらゆる機会と場所において自主的に読書活動をおこなうことができる」環境をつくるため、本計画を積極的に推進し、越前市教育振興ビジョンで掲げた「主体的に学びを活かす生涯学習社会の実現」に向けて、市民と協働して「読書のまち宣言」の実現を目指します。

²⁵ PDCAサイクル=Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Action（改善）という政策サイクル。P段階での代替案の検討と評価を行った上で、このサイクルを回す必要があります。最もシンプルなマネジメントシステムです。

読書のまち宣言

越 前 市

国府の輝かしい歴史と文化を継承し、はぐくんできたわたしたち越前市民は、地域力を生かして、いつでも、どこでも、誰でも読書に親しむことができる環境を整えます。そして、越前市にゆかりのある本などを読み合うことを通して住むことに誇りを持つ越前市民を育て、夢や希望を語り合えるまちづくりを目指すため、ここに読書のまちを宣言します。

- 1 わたしたちは、赤ちゃんを愛情豊かに育てる親子読み聞かせに取り組めます。
- 1 わたしたちは、子どもの読書習慣を育てる朝読書・読み聞かせあさどくに取り組めます。
- 1 わたしたちは、親子や家族みんなで仲良く読書に親しむ家読書うちどくに取り組めます。
- 1 わたしたちは、郷土の歴史や文化、伝統などに触れる地域読書まちどくに取り組めます。
- 1 わたしたちは、毎月第3土曜日を市民読書の日と定め生涯読書いきがいでくに取り組めます。

【資料2】 全国学力・学習状況調査(越前市・小学校)

(%)

		H28	H29	H30	R1	R3	(参考) R3 全国
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を行いますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。)	2時間以上	8.8	7.9	7.7	6.5	5.2	7.4
	1時間～2時間	11.2	11.9	15.5	13.2	9.5	10.8
	30分～1時間	24.9	25.8	26.8	27.4	18.3	19.2
	10分～30分	33.6	34.3	32.7	26.4	29.3	23.8
	10分未満	10.9	9.3	9.3	13.6	14.7	14.7
	全くしない	10.5	10.8	7.8	12.9	23.0	24.0
昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか。	週に1回以上	43.1	45	なし	37.8	なし	
読書は好きですか。	当てはまる、どちらかといえば当てはまる	78.3	77	なし	78.2	なし	

(参考)

			H28	H29	H31	R2
昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか。	週に1回以上	福井県	27.5	24.9	23.1	調査中止
		全国	16.4	15.6	17.2	
読書は好きですか。	当てはまる、どちらかといえば当てはまる	福井県	73.5	72.3	72.6	調査中止
		全国	74.6	74.3	75.1	

全国学力・学習状況調査(越前市・中学校)

(%)

		H28	H29	H30	R1	R3	(参考) R3 全国
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を行いますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。)	2時間以上	4.1	6.2	5.9	4.9	5.4	5.5
	1時間～2時間	8.3	10.8	10.5	7.8	9.9	8.6
	30分～1時間	22.6	23.5	28.7	20.0	15.9	14.8
	10分～30分	39.7	37.3	43.0	31.3	26.2	21.2
	10分未満	8.2	5.3	5.0	9.0	8.6	12.4
	全くしない	17.1	17.0	6.8	27.0	33.1	37.4
昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか。	週に1回以上	5.9	7.2	なし	6.0	なし	
読書は好きですか。	当てはまる、どちらかといえば当てはまる	65.4	75.5	なし	71.4	なし	

(参考)

			H28	H29	R1	R2
昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか。	週に1回以上	福井県	8.7	8.2	7.7	調査中止
		全国	7.6	8.1	8.3	
読書は好きですか。	当てはまる、どちらかといえば当てはまる	福井県	69.2	70.6	69.3	調査中止
		全国	69.9	69.9	68.0	

【資料3】家で本・新聞を全く読まない子どもの時間の使い方1位2位：第73回学校読書調査（2020年版毎日新聞社）

	1位	2位
小学生	テレビ・ビデオ・DVDを1時間以上見る(68.9%)	スマホやタブレット、ゲーム機を1時間以上使う(68.0%)
中学生	スマホやタブレット、ゲーム機を1時間以上使う(82.3%)	テレビ・ビデオ・DVDを30分から1時間以上見る(64.6%)
高校生	スマホやタブレット、ゲーム機を1時間以上使う(75.6%)	家で勉強を1時間以上する(64.1%)

【資料4】 越前市立図書館 児童関係統計

	H28	H29	H30	R1	R2
児童書の貸出冊数（冊）	204,002	190,277	198,230	196,378	169,529
うち文学系読物の冊数（冊）	39,424	35,828	37,773	34,909	29,426
0～18歳の貸出冊数（冊）	82,425	78,249	80,299	81,208	72,314
全体における割合（%）	15.6	15.6	15.7	16.0	16.2
0～18歳の貸出人数（人）	14,149	13,361	14,288	14,077	11,716
全体における割合（%）	12.6	12.6	12.5	12.3	11.7

【資料5】越前市立図書館 親子向け定例行事

中央図書館

毎月第1土曜日	たのしいかみしばい
毎月第2土曜日	おはなしの会(すまいる工房)
毎月第3土曜日	きつずらんど
毎月第4土曜日	おはなしの会(おはなしあのね)
第5土曜日のある月	きせつのおはなしあのね

今立図書館

毎月第1土曜日	昔あそびと紙しばい
毎月第2土曜日	おはなしおたのしみ会
毎月第3土曜日	こども映画会
毎月第4土曜日	こどもランド

絵本館

毎月第1土曜日	だるまちゃんと遊ぼう！
毎月第2土曜日	からすの大工やさん
毎月第3土曜日	からすの紙芝居やさん
毎月第4土曜日 ※	パピプペポーおんがくかい
第5土曜日のある月	自然と遊ぼう！

※ 4月、1月、2月を除く。

【資料6】越前市立図書館 蔵書冊数 実績値(～R2)と推計数値(R3)(冊)

資料区分	H28	H29	H30	R1	R2	R3
一般	341,852	344,959	351,514	358,192	364,885	372,000
児童	108,494	110,207	112,213	114,358	116,231	118,000
地域資料	43,801	45,595	47,481	48,789	50,440	52,500
雑誌	17,371	18,186	18,689	19,291	19,259	19,300
AV	8,258	7,793	7,903	7,995	8,017	8,100
合計	519,776	526,740	537,800	548,625	558,832	569,900

(令和3年度は推計数値です。)

【資料7】越前市立図書館 利用カード登録者数 実績値(～R2)と目標数値(R3)(人)

	H28	H29	H30	R1	R2	R3
登録者数	41,052	42,731	44,603	46,232	47,523	48,823

(令和3年度以降は推計数値です。)

【資料8】越前市立図書館 年齢別貸出冊数(上段:貸出冊数 下段:貸出人数)

平成28年度	6以下	7～12	13～15	16～18	19～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上	団体	合計
越前市内	20,457	44,724	5,634	2,952	26,947	79,152	69,962	54,500	86,692	49,940	23,611	464,571
	2,746	7,771	1,504	864	5,790	13,761	14,899	13,717	23,023	15,117	2,031	101,223
鯖江市	1,422	4,226	451	156	1,272	6,963	6,838	3,501	6,158	997	0	31,984
	148	594	96	25	231	1,118	1,453	775	1,547	319	0	6,306
県内 その他	581	1,180	230	412	2,575	6,295	5,170	4,724	7,385	2,267	1,226	32,045
	73	186	51	91	528	1,416	1,205	1,141	1,714	731	789	7,925
県外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	150	150
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	121	121
合計	22,460	50,130	6,315	3,520	30,794	92,410	81,970	62,725	100,235	53,204	24,987	528,750
	2,967	8,551	1,651	980	6,549	16,295	17,557	15,633	26,284	16,167	2,941	115,575

令和元年度	6以下	7～12	13～15	16～18	19～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上	団体	合計
越前市内	22,073	41,307	5,131	2,897	20,705	64,167	67,025	48,132	76,823	70,251	25,852	444,363
	3,120	7,317	1,345	762	4,621	12,671	15,157	13,100	21,228	21,249	2,325	102,895
鯖江市	1,694	4,135	805	459	604	5,916	7,819	2,951	6,285	2,694	0	33,362
	234	594	146	80	170	1,022	1,682	832	1,609	719	0	7,088
県内 その他	862	1,473	205	167	1,687	6,048	5,949	3,519	6,324	2,882	1,370	30,486
	166	240	32	41	371	1,274	1,569	903	1,573	937	810	7,916
県外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	383	383
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	168	168
合計	24,629	46,915	6,141	3,523	22,996	76,131	80,793	54,602	89,432	75,827	27,605	508,594
	3,520	8,151	1,523	883	5,162	14,967	18,408	14,835	24,410	22,905	3,303	118,067

令和2年度	6以下	7～12	13～15	16～18	19～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上	団体	合計
越前市内	20,530	33,233	5,172	2,899	17,017	57,780	54,787	36,417	67,494	66,783	18,356	380,468
	2,863	5,315	1,119	712	3,821	10,764	12,399	10,452	18,486	19,624	1,722	87,277
鯖江市	2,811	4,000	543	379	1,135	6,862	9,032	2,944	5,549	3,121	3	36,379
	344	550	130	75	240	1,196	1,930	757	1,167	866	3	7,258
県内 その他	773	1,168	513	293	2,062	4,509	6,272	3,170	5,076	3,489	1,634	28,959
	177	254	104	73	443	982	1,741	835	1,340	1,004	902	7,855
県外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	448	448
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	160	160
合計	24,114	38,401	6,228	3,571	20,214	69,151	70,091	42,531	78,119	73,393	20,441	446,254
	3,384	6,119	1,353	860	4,504	12,942	16,070	12,044	20,993	21,494	2,787	102,550

【資料9】

1か月に1冊も読まない高校生の割合:県「高校生学習状況調査」、全国「学校読書調査」

	福井県	全国	(割合%)
令和元年度	43.8	55.3	
令和2年度	45.8	調査中止	

【資料10】

高校生の本を読まない理由:「子どもの読書活動の推進等に関する調査研究報告書 平成30年度」(文部科学省)

ほかのことをしていて時間がなかったから	47.0	(割合%)
ふだんから本を読まないから	31.8	
ほかにしたいことがあったから	25.1	